岩崎俊夫教授記念号に寄せて

岩崎俊夫先生は1991年４月に立教大学経済学部教授として着任され，2016年３月に定年退職されるまで25年の長きにわたり，立教大学および経済学部の教育・研究の発展と向上に尽くされました。岩崎俊夫先生のそうしたご尽力とご功績を讃えて，本誌記念号を刊行できることは，立教大学経済学部にとって真に名誉なことと思います。

岩崎俊夫先生は1969年４月にロシア文学研究を志し北海道大学文類に入学されます。この時期は，全国の大学で学生運動が激化した時代であり，封鎖された北大キャンパスで先生は独学でロシア語の勉強に励む一方で大学民主化運動にも加わり，悩んだ末に進路変更を決断され，経済学部へ進学されたと伺いました。ロシア語に堪能で，文学や芸術に造詣深い先生の知の源流を推測させます。1974年３月に経済学部を卒業し，研究者を目指して北海道大学大学院経済学研究科に進学された先生は，旧ソ連の統計学研究を軸に本格的に経済統計学研究の途に入られました。その後，北海道大学経済学部助手を経て，先生は1982年４月に北海学園大学経済学部専任講師に就任されます。1983年４月に助教授，1990年４月には教授に昇格され，翌1991年４月に本学経済学部教授に就任されました。

本学経済学部に赴任されて以降，岩崎俊夫先生が経済学部改革に果たされた貢献には特筆すべきものがあります。先生は1997年７月から99年３月まで経営学科長（教務主任），これに引き続き1999年４月から2001年３月までは経済学科長（教務主任）を務めるなど，２期連続して学科長および教務主任の業務を担われました。さらに2003年４月に先生は大学院経済学研究科主任に就きますが，就任直後に菊地進経済学部長が急病で倒れる困難に直面し，同年６月から９月まで大学院主任兼務で経済学部長代行を務め，同年10月には経済学部長に就任し，2005年３月までその大任を果たされました。この間，2003年度には全学の入試委員長を兼務されています。

岩崎俊夫先生が学科長および学部長を務められた時期に経済学部は大きく変わりました。この改革を中心的に担われたのが先生でした。2002年の会計ファイナンス学科設置に際しては，会計学関連科目担当の教員と連携し，教務主任として新学科開設に尽力されました。また2006年には経済学部経営学科と社会学部産業関係学科が統合され経営学部が設立されますが，先生は経済学部長としてその設立に指導力を発揮する一方で，経営学科分離後の経済学部再構築に向け，経済政策学科の新設や経済学科，会計ファイナンス学科のカリキュラム再編にも力を注

がれました。

岩崎俊夫先生は教育にも大きく貢献されています。先生は，学部においては主に統計学，経済統計学，情報処理入門を担当され，大学院では経済統計特論等の講義を担当されました。特に初年次の基幹科目である情報処理入門では，共通テキストの作成や講義内容の統一に精力を傾けられ，今日の経済学部独自の情報教育の基盤を築かれました。統計学もまた経済学部の基幹科目ですが，先生は社会統計学の視点から，学生に統計分析の基礎的能力を修得させる指導を徹底されました。他方，経済統計学の講義では，この分野の近年における新たな動向を見極めながら，学生に統計学の応用力を修得させるべく努められました。さらに大学院教育にも様々な工夫をされ，大学院生の統計分析力の向上に向け熱心な指導を行った結果，少なからぬ研究者が先生の下で育っています。

岩崎俊夫先生の代表的な研究成果は，先生が在職中にまとめられた『統計的経済分析・経済計算の方法と課題』(八朔社，2002年)，『社会統計学の可能性―理論・行政評価・ジェンダー』(法律文化社，2010年)，『経済計算のための統計―バランス論と最適計画論』(日本経済評論社，2012年)，『ロシア統計史論序説―社会統計学・数理統計学・人口調査［女性就業分析］―』(晃洋書房，2015年)，これら４点の単著に集約されていると言って良いと思います。これらの著作において先生は社会統計学における４つのテーマ，すなわち，①数理的手法を社会経済分析に適用する際の意義と限界（数理的計画手法，産業連関分析，最適計画論など)，②ロシア統計理論の歴史的展開（国民経済バランス論，部門連関バランス論，統計学論争など)，③ジェンダー統計論の継承と発展，④自治体の中長期計画における統計利用の現状調査，これらのテーマに関して重要な貢献をされました。これらの成果はいずれも批判的視点から当該分野の研究に一石を投じる重要な研究成果と伺っています。

岩崎俊夫先生は学外活動にもまた積極的に取り組まれました。文部省・国立女性教育会館の「女性及び家族に関する統計データベース懇談会委員」(1994年４月～1996年３月）を始めとし，学会活動としては経済統計学会・全国運営委員（1991年４月～1995年３月，2001年４月～2004年３月)，経済統計学会・全国理事（2006年４月～2011年３月）を務められ，日本統計学会，環太平洋産業連関分析学会，比較経済体制学会などの学会の発展にも寄与されました。

岩崎俊夫先生は本学経済学部を定年退職されるにあたり，「研究は広い視野で，毎日コツコツと―立教大学経済学部での25年―」と題する，大学院生に向けたエールを大学院経済学研究科の紀要である『立教経済学論叢』第82号（2016年３月）に特別寄稿されています。このなかで先生は「普段からコツコツと力を蓄えることさえ忘れなければ，自から道は拓ける。それがわたしの現在の偽らざる心境である」と記しています。また，「己をよく知り，己のできること，持ち場，役割を心得て，研究を続けることである」とも記しています。先輩研究者の言葉として，また大学人の先輩の言葉として，背筋が伸びる思いがします。岩崎先生の豊かな教養と学識そして経済学部改革にも研究・教育にも常に真摯に向き合った姿勢は，これからの立教

大学および経済学部を担う私たち全員が深く胸に刻み継承していかなければならないものと思います。

岩崎俊夫先生がこれからもご健勝でますますご活躍されることを祈念して，本記念号の発刊の辞に代えさせていただきます。

2017年１月

経済学部長　須永　徳武